

あいちの印刷

3

2007.3
No.424



も
く
じ

巻頭言 経営資質の向上と組合活性化を目的に! 若手幹部の方々の参加を歓迎 / 青年会会長 安田智雄	3
中部地区印刷協議会 平成18年度下期会議	4
平成18年度2月期臨時理事会 収支決算見込と支部再編の経過を報告	6
愛印工組2月セミナー開講 教育・労務セミナー	7
愛知労働局労働基準部安全課よりの要請	8
経営革新委員会・企業見学会を実施	8
井上計氏を偲ぶ会	10
リョービ㈱/リョービマジクス㈱ 広島東工場に新工場棟完成	11
本の案内/お知らせ/事務局だより	12

経営資質の向上と組合活性化を目的に！ 若手幹部の方々の参加を歓迎

青年会会長 安田 智雄

愛知県印刷工業組合の青年会は会員企業の経営資質の向上、また愛印工組の活性化を目的として、23名の部会員によって構成されています。

現在、研修や勉強会を中心に昨年来約2か月に一度のペースで活動しております。

初回は「中国活用方法」のタイトルで大連でビジネスを展開されている愛印工組の副理事長でもある木野瀬印刷の木野瀬社長に合併会社設立の経緯や現状をお話いただきました。また続いて実際にデータ製作において現地の会社を活用されている丸和印刷の鳥原社長にも生の声を伺いました。

第2回は今や3年待ちの商品となった「魔法のフライパン」の錦見鑄造の錦見社長に「ヒット商品の作り方と売り方」を講演していただきました。突然訪れた大量発注先からの値引きの要請。倒産の危機を乗り越えるため少人数ながら下請けからの脱却を目指して商品開発に成功

された話はプロジェクトXさながらでした。

第3回はトヨタ自動車の新井本部長を招いて「トヨタのマーケティングウェイ」の演題で営業部門でのトヨタの考え方や人材の育成に関してお話をいただきました。

各回とも充実した講演内容であったと自負しておりますが、その後の2次会でも各講師の裏話や本音の話なども聞けて、有益な点が多分にあったように思います。

このような活動を行っている青年会ではありませんが日本社会と同じように高齢化の波や部員の減少もあり実際に運営しているのは私も含めて「壮年部会」?となりつつあるのが現状であります。

是非、皆様の企業に於かれましては20代、30代の経営者の方や若手幹部の方々の青年会への登録とご参加をお待ちしております。よろしくお願い申し上げます。

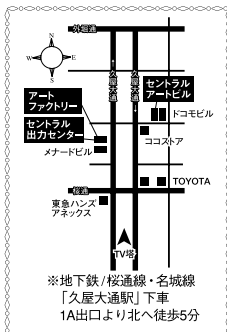


東海地区最大級!!
**画材・額縁
絵画・ギャラリー**

セントラル画材株式会社

名古屋市東区泉1丁目13-25 セントラル・アートビル
【代表】tel 052-951-8998 fax 052-951-8997

URL: <http://www.central-gazai.co.jp>



※地下鉄/桜通線・名城線
「久屋大通駅」下車
1A出口より北へ徒歩5分



必ず貴方の仕事の力になります



CENTRAL GROUP

- (株)セントラルグラフィックセンター / 営業部
名古屋市東区泉1丁目13-25 セントラル・アートビル3階
Tel: 052-950-3456 Fax: 052-950-4456
- セントラル 出力センター
名古屋市中区丸の内3丁目18-12 大興ビル2階
Tel: 052-953-8628 Fax: 052-951-2641
DTP出力・大型カラー出力 (ポスター・屋外対応プリント他)

- (株)セントラル画材(株) / 企画営業部
名古屋市中区丸の内3丁目18-12 大興ビル3階
Tel: 052-953-8737 Fax: 052-951-8993
- セントラル アートファクトリー
名古屋市中区丸の内3丁目18-12 大興ビル3階
Tel: 052-951-8994 Fax: 052-951-8993
フレーム加工・看板制作等

- セントラル フレームセンター
名古屋市東区泉1丁目13-25 セントラル・アートビル3階
Tel: 052-950-6566 Fax: 052-950-6518
額装・松筒コレクション・フレーム・精緻版装
- セントラル アートギャラリー
名古屋市東区泉1丁目13-25 セントラル・アートビル4階
Tel: 052-950-6566 Fax: 052-950-6516



中部地区印刷協議会
平成18年度下期会議
(愛知県会議)

地域、各県の問題議論の場 地区協の出会いが企業見学会に繋がる

中部地区印刷協議会のもよう

2月21日(水)午後12時15分より、平成18年度下期の中部地区印刷協議会が、名古屋市のホテルキャッスルプラザで開かれました。今回は来賓として全印工連から白井紘一副会長、武石三平専務理事、木野瀬吉孝業態変革推進企画室委員をお招きし、また地区協の大河内信行顧問と大鹿洪司顧問にもご列席いただき、総勢43名が出席しました。

愛知県からは、高井昭弘・鈴木正博副理事長、猪飼重太郎・岡田邦義両理事、村瀬誠専務理事が出席しました。

挨拶

開催県挨拶：高井昭弘愛印工組副理事長

私が地区協に出席させていただくようになってから5回目になります。最初、「地区協とは、どういうものかな」と思っていたわけですが、全印工連の理事会に出席した時に、浅野会長から「全印工連では、なかなか各県工組の問題や地域の問題をすべて

開催県挨拶をする
高井昭弘副理事長



協議会は、開催県を代表して愛印工組の高井昭弘副理事長が挨拶、続いて中部地区協の林初彦会長が挨拶の言葉を述べ、前半の全体会議へと続きました。

前半の全体会議では、全印工連からの報告と連絡事項の説明を武石三平専務理事が行い、木野瀬吉孝業態変革推進企画室委員が「業態変革推進プラン第3ステージ『新創業』」を解説しました。

分科会は5委員会では活動報告、討議が行われ、全体発表では、活発な意見交換が行われ、意義ある協議会となりました。

取り上げ、問題を討議することはとてもできない。従って、地区で起きた問題は地区協で議論して解決していただきたい。どうしても解決できない問題を全印工連に上げてほしい。全印工連では、そういう問題を検討していきたい」という話があり、「地区協とは、そういう位置付けなのだ」と思いました。本日は、そういう意味で各県の組合員の問題などをしっかりと討議され、有意義な1日にしていただきたいと思います。

実は、昨日、愛印工組の事業の一環でサンメッセ(株)を見学させていただいた。これも、地区協の中で、田中会長に私がお願いして、快く承していただき、実現したものです。こういうことも、ある意味では、地区協の付き合いの中から生まれたプラスアルファの面だと思います。また、その時、田中会長は「見学の申し入れがたくさんあるが、私は積極的に申し入れを受けています。その理由は、自社を見て何か

良い部分があったらそれを取り入れていただき、業界レベルが少しでも上がることを祈っているからです」と大変感動的なことをおっしゃいました。そういう部分も含めて地区協が意義深いものになることを祈念して歓迎の挨拶と致します。

会長挨拶：林初彦会長

名古屋は大変に元気がよくて日本経済を引っ張っている原動力だと言われています。この地区に来ますと、経済が明るくなったということを身にしみて感じられます。先日、名古屋中小企業投資育成会社が社長会を開催しました。この投資育成会社から中部5県の会社約500社が投資を受けています。その500社の会員会社の最近の景況を調べた結果が話の中に出てきました。約500社の中で増収が66%、増益が58%だそうです。印刷会社も数社会員会社だと思いますが、そういう話を聞き、元気があるなど痛感した次第です。

印刷業界を全体的に見ますと、昨年の11月頃から印刷業界全体から「忙しくなった」という声を聞くようになりましたが、それ以前はあまり良くなかったと感じます。今年に入って、「経済が明るさを取り戻してきている」という言葉には残念ながら、そぐわない状態だという気がします。活発な印刷需要で仕事がたくさんあるという状態では決してないと思言しても大きな間違いではないと思っています。従って、まだまだ厳しい熾烈な競争が続いているということも否定できない事実です。

そういう状況の中で、1月11日、愛知県の「印刷と関連業界の新年互礼会」に出席させていただきました。その互礼会の前に、慶應義塾大学の榊原教授の講演会が開かれました。「経営イノベーションと印刷業界の将来」が演題でした。私自身、大変勉強させていただき、喜んでおります。その時、一番最



中部地区印刷協議会
林会長の挨拶

後に榊原教授が言われたのは次のような言葉でした。


「そもそも世の中には成長産業といったものは存在しない。そのように見える産業には実は成長の機会を自らつくり、適切に資源を配分して成果を上げている個々の企業が存在するだけである。成長が危なくなったり、スローダウンしたり、あるいは完全にストップしたりする原因は、市場が成熟したからというよりも、個々の企業の戦略が失敗したからである」、このように断言しておられます。この言葉がそれ以来、私には大変気になっておりました。榊原教授は「尽きるところ経営者のありようによる」ということを述べられていると考えます。これに鑑みて、大変熾烈な競争の中で我々はいかに成長を成し遂げていくか、平成19年も皆様方と力を合わせて進んでいかなければならないと実感します。

本日の地区協ではいろいろな話が出てくると思います。ぜひとも有意義な1日になるように、皆様方のお力添えをお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

全体会議前半(武石専務理事の全印工連事業説明、木野瀬委員の業態変革第3ステージ「新創業」説明)、全体会議後半(分科会報告)は次号に掲載。

SCREEN MEDIA TECHNOLOGY **ここが違います。大日本スクリーンの CTP Workflow**

1 PDF1.4対応をはじめとする最新の
コアテクノロジーでCTPをサポートする
インテリジェントRIP



ネットワークプロダクション対応
インテリジェントRIP
Trueflow

2 目的別に選択できるPlateRiteシリーズ

四六半判対応
サーマルプレートレコーダー
PlateRite4300

四六全判対応
サーマルプレートレコーダー
PlateRite8600

株式会社 メディアテクノロジー ジャパン

本 店 / 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル <http://www.mtjn.co.jp/>
名古屋支店 / 〒460-0003 名古屋市中区錦2-14-21 円山ニッセイビル 052(218)6400

大日本スクリーン製造株式会社
メディアテクノロジー カンパニー <http://www.screen.co.jp/>
〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目

平成18年度2月期臨時理事会



決算見込と支部再編 経過を報告



2月期臨時理事会(左)
挨拶する白井理事長(右)

平成19年2月19日(月)午後3時30分から、平成18年度2月期臨時理事会が27名の出席により、愛知県印刷会館3階・会議室で開かれました。

白井紘一理事長の挨拶で始まり、吉川正敏理事(岡崎支部長)に全印工連会長表彰の記念品が白井理事長から手渡され、同理事長が議長を務め議案審議が進められました。以下、その内容の要旨です。

1) 平成18年度収支決算見込み

現状は収入増、支出減で推移しており、収入増については、担当の高井副理事長から、特に組織・共済委員会の猪飼重太郎委員長の保険加入促進への努力が大きく貢献していることが報告されました。

2) 支部再編について

中島支部：西尾張支部に名称変更、一宮支部：10社以上にできなければ他支部へ移動、瀬戸支部：他支部へ移動、小牧・春日井支部：東尾張支部へ名称変更、豊田支部：10社以下なら他支部へ移動、刈谷・知立支部、安城支部、碧南支部：西三河支部として統合、西尾支部：10社以上にならなければ他支部へ移動、豊橋支部：東三河支部に名称変更、新城支部：東三河支部へ移動、豊川支部：10社以上にならなければ東三河支部へ移動するとい

うことが承認されました。

今後は、平成19年3月31日現在の組合員数を基準にしてそれぞれの支部を確定し、5月の総代会で審議決議し、平成19年暮れには平成20年の総代会に向けて、新役員選任に入り、平成20年度から新体制がスタートすることになります。

3) 今後の事業等、日程について

3月以降の事業等の日程は次の通りです。

4月期理事会

日時：4月13日(金)午後3時30分、会場：愛知県印刷会館

5月期理事会及び総代会

日時：5月18日(金)、会場：名古屋観光ホテル

中部地区印刷協議会上期会議

日程：6月22日(金)・23日(土)、会場：高山グリーンホテル(岐阜県工組担当)

7月期支部長会・理事会

日時：7月19日(木)午後3時30分、会場：愛知県印刷会館

セミナーを開講

教育・労務セミナー

マーケティング委員会・青年会共催セミナー

教育・労務セミナー

セミナーは2月17日(土)に愛知県印刷会館3階・会議室において2部構成で行われ、第1部は午前10時30分より開始されました。テーマは「外国人研修生の受け入れ」で、講師は協同組合印刷事業研究会の後藤啓二事務局長が務めました。

セミナーに先立ち、鈴木正博副理事長が「私たちが、なぜ協同組合をつくったのかと申しますと、それは将来的に安定した人員の確保を考えたからです。そういう時に、外国人研修制度があることを聞き、活用することにしました。それで組合をつくることになり、協同組合印刷事業研究会を設立し、私が理事長に就任しました。当組合は印刷と製本に特化した組合です。少子化の中で、印刷業も良い人材を確保することが難しくなります。当組合は今年で3期目に入ります。自社には40名ほど研修生と実習生がいるわけです。非常に労務管理が楽です。また、品質管理もレベルの高い人たちなので、信頼できます。印刷で要求される最大の能力は検査力だと思います。それが無いと良品は生産できません。自社が受け入れている人たちの視力は1.0以上です。日本人の視力は下がってきています。また、熱意をもって働いてくれる人ばかりです。能力のある人を活用すれば、良い製品を生産できます。いま非常に良い結果が出ています。ぜひ皆様方にも活用を検討していただきたいと思います」と挨拶しました。

次いで、後藤啓二事務局長が中国人研修生受け入れについて説明しました。

第2部は、午後1時から同会議室で開かれ、こちらは「印刷業のしくみ作り」をテーマに、中島弘稀氏(榎丸グラフィックス代表取締役)が講師を務めました。

なお、第1部は16名、第2部は19名が聴講しました。

マーケティング委員会・青年会共催セミナー

2月17日(土)午後1時30分より、デザインセンタービル(ナディアパーク)6階・デザイン工房室において、マーケティング委員会と青年会共催のセミナーが31名の出席を得て開講されました。テーマは「プロデューサーのためのプロジェクト管理術～企画成功のために、プロデューサーの果たすべき役割とは～」で、講師は㈱ビジネスコミュニケーション研究所の田中伸一代表取締役が務めました。

講演に先立ち、挨拶に立ったマーケティング委員会の鳥原久資委員長が「土曜日の午後にも関わらず、大勢の皆様方にお集りいただき、感謝申し上げます。最初の企画は今回1回のみだったのですが、定員をオーバーしてしまいまして、2回に分けて開催させていただきます。来月の17日にも全く同じ内容でセミナーを開講します。これも組合に所属しておられる印刷会社の皆様がいままでとは違った形での営業展開を真剣に考えておられる裏付けだと感じます。昨年、マーケティング委員会は、平林・片岡両氏に講師をお願いし、新しい切り口での営業展開の実際の事例を講演していただきました。今回は、『プロジェクト管理術』といういままでの印刷営業には縁のなかった部分を勉強していただきます。我々の身になり、すぐに使えるということで、今回は企画しました。こういった時間を活かしていただくことが一番大事だと思います。今日、学ばれたことをぜひとも企業活動に活用していただければ、幸いです」と述べました。

田中講師はプロジェクトを「所定の品質、日程、費用を満足するために、期間を限定して行う一連の作業」と定義し、まず最初にそのわかりやすい事例として、台風や大雨で自宅が床上浸水に遭遇した時を想定して、自分の家を再生するためには何をしなければならぬのかを説明しました。また、自身が体験した通信衛星セミナーの体験も解説。作業の洗い出しと構造化の手法について、順を追って細かく説明し、プロデューサーに求められるものを示しました。

DIC

数値プロセスインキ フュージョンG

Fusion G

多様化する
ニーズに応じて

100%樹脂塗布インキ ナチュラルリス100

Naturalith 100

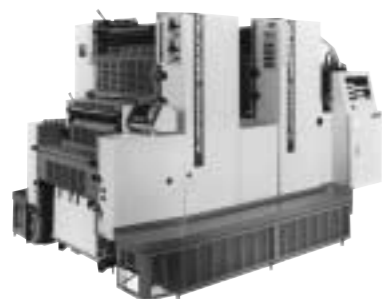
大日本インキ化学工業株式会社

新世代エッチング プレサート

名古屋営業所 TEL(052)524-5541 FAX(052)524-5545
DICホームページ <http://www.dic.co.jp/>

Presarto

NEW サクラのベストセラーであるオリバー-258EP II の実績をベースに開発されたかつてない省スペースタイプの菊半裁2色両面兼用機 **オリバー-266EPZ登場!**



開発コンセプト
コンセプト1 省スペース
従来の菊半裁2色両面兼用機と比較して全長で約18%省スペース化(当社比)
コンセプト2 低価格志向
オリバー-258EP とフレームの共用化をはかり、品質を落とさずコストの低減を実現
コンセプト3 A4サイズの印刷
菊半裁機でありながら、A4(297x200mm)の印刷まで可能
コンセプト4 高度な省力化装備を標準搭載
低価格志向のもとに一般的にオプション扱いとなる装備を標準搭載

主な標準装備
自動刷版交換装置 全自動反転切替装置 連続給水装置
分割ブレード目盛り管理機構 対話型POD画面 コッキング装置
版見当リモコン装置

Sakurai 株式会社 桜井グラフィックシステムズ
本社 東京都江東区福住2-2-9 千135-0032
TEL(03)3643-1131 FAX(03)3643-1138
名古屋営業所 名古屋市中区上堀越町2-9-1 千451-0084
TEL(052)524-5541 FAX(052)524-5545

愛知労働局労働基準部安全課よりの要請
平成19年度「年間安全衛生管理計画の作成」について

愛知労働局より、平成19年度「年間安全衛生管理計画の作成」についての要請がありました。

平成18年の県内における労働災害の発生状況について、「休業4日以上の死傷者数が6,870人(平成18年12月末現在)で、対前年同期比で316人(4.8%)の増加、内死亡者数は94人(同12月末現在)で、対前年同期の62人と比べ32人の大幅増加となっており、引き続き労働災害防止対策の強化が必要な状況です」と、警告しています。

労働災害防止対策の推進には、「経営トップが安全の確保を最優先する方針を明らかにする。安全衛生管理体制を確立する。年間安全衛生管理計画を定める。計画に基づき自主的な安全衛生管理活動を展開する。上記～を組織的かつ継続的に行う労働安全衛生マネージメントシステムを導入する」などが重要であるとしています。

「安全衛生管理計画作成」の趣旨。

「労働安全マネージメントシステムは、従来からの安全衛生管理手法である再発防止型から、潜在的危険性を認知し、改善をはかる先取り型へ前進するための手法です。具体的には、労働者の協力の下でリスクアセスメントを基本に据えて、「計画-実施-評価-改善(P-D-C-A)」という一連の過程をスパイラルに回し、連続的・継続的な安全衛生管理を推進し、後退することなくレベルアップを図っていくものです。

労働安全衛生マネージメントシステムを進める上で、実効性のある安全衛生管理計画を樹立することは、基本的事項であり、また、労働安全衛生マネージメントシステムを導入していない事業所においても、安全衛生管理の根幹となるものです。

愛知労働局では、労働安全マネージメントシステムの普及促進を図るため、年間安全衛生管理計画の参考様式を作成していますのでご利用下さい。

(編集部注：年間安全衛生管理計画書の参考様式は、愛知労働局のホームページからダウンロードできます。
<http://www.aichi-rodo.go.jp>)

経営革新委員会・企業見学会を実施

サンメッセ株(大垣市)を訪問
「イノベーション」「コンプライアンス」
「環境」がサンメッセ株の経営の柱

経営革新委員会(細井俊男委員長)の本年度第2回目の企業見学会が2月20日に実施されました。今回の見学会には、60名が参加しました。

企業見学会に先立ち、挨拶に立った細井委員長が「本日、快く見学会に応じていただき、サンメッセ様には心から感謝申し上げます。このような素晴らしい会社からは学ぶべき部分が数多くあると思います。良いところは自社に取り入れ、これからの経営に活かしていただければ嬉しく思う次第です」と述べました。

次いで、サンメッセ株の田中良幸会長が挨拶に立ち、次のように述べました。

「愛印工組の皆様をお迎えするのは、一昨年に続いて2回目ですが、高井愛印工組副理事長から要望があり、再び来ていただくことになりました。私が工場を同業の皆様にも解放しようと思ったのは、印刷業界にもっとレベルアップしてもらいたいからです。ドイツでは、印刷技術者はまさにドクターに近いような感じです。“そういう業界になればいいな”という夢を私は抱いています」

「私は、会社経営の第1は『イノベーション』だと思います。会社が儲かるためには、お客様が多くあり、合理化してコストを下げれば、必ず儲かります。それをしないと会社は遅れてしまいます。私は常に前向きに、できるだけ設備投資をしたいと考えています。わが社は印刷機械もほとんどの種類が入っています。『印刷のデパート』と言われるくらい



サンメッセでの記念写真 (左上)細井委員長の挨拶 (左下)田中サンメッセ会長の挨拶

です。それほどいろいろな設備を揃えています。当社は昨年、創業70周年を迎えました。我が社では正社員・パートを含めて1,048名が働いています。なぜそんなに多くの人が働いているかということ、内製化しているからです。地域的に外注先が見つからず、そうせざるを得ませんでした。従って、ほとんどの設備を内製化し、未だに名刺・ハガキの印刷も受注しています」

「経営の第2は『コンプライアンス』です。第3は『環境』。『イノベーション』『コンプライアンス』『環境』、この三つが我が社の経営の柱です。私が社長に就任した時、まずISOの認証取得を進めました。取引先がその取得を要求したからです。それができなければ、取引ができなくなります。だから、品質・環境ともに取得を目指しました。このところ、会社内では社員に一切携帯電話を持たせないという企業も出てまいりました。印刷物を携帯電話で撮影される可能性があるからです。『コンプライアンス』を踏まえて、社内から情報を流出させないような仕組みにするべきだと考えます。『環境』に

ついては、自社の周りの住民に迷惑をかけないような会社になりたいという思いから取り組んでいます。私は、社員が“印刷会社で働いて良かった”と思えるような会社になりたいと考えています」

引き続き、竹林啓路本社工場長の概要説明を聞いたあと、愛印工組の一行は3班に分かれて工場内を見学しました。

サンメッセ株は大型設備投資として、昨年11月の本社第5工場建設、三菱B縦半裁8色オフセット輪転機導入に引き続き、12月初旬にハイデルベルグ菊全判8色両面兼用機を中工場、本年1月本社第5工場に小森B縦半裁オフセット輪転機、本社第3工場にリョービ菊半裁寸延8色両面兼用機を導入しました。本社第5工場に導入した小森機は同社8台目のオフ輪となり、自動刷版交換装置やコモリ・ハイパーシステムを備えており、損紙削減に力を発揮、大量ロットのチラシ・カタログ等への対応を主目的にしています。また、社員の意識もレベルが高く「カイゼン提案」が盛んに行われており、社内の合理化に大きく貢献していました。

KONICA MINOLTA

プロフェッショナル新潮流 デジタル化によるスキルレス時代の到来

プリンターの生産性と低コスト

A4/51枚 1分当り
A4フルカラーを最大51枚(A4)/分という大きな生産力で、迅速な検版作業をサポート。またショートラン印刷にも対応できます。

多種用紙対応
近似した再現性と多彩な用紙での出力
画像・文字再現に忠実なカラーブルーフが安価に出力できます。そして色校正での出力回数を減らし、一層のコストダウンをはかります。

A3 Wide
A4トンボ付を2面付の出力サイズ
印刷における実用面を考慮した、A4トンボ付を2面付で出力できる実用性が、出力時間やペーパーの節約に役立ちます。

重合法トナー
高い画像・文字品質を実現
一層広い色域を有するトナーの開発。また重合法トナーの技術により均一粒状を実現し、ハイエンドDDCPIに匹敵する再現品質が得られます。

再現性

プリンターの実用性と再現力

Pagemaster Pro
ハイクオリティカラーレーザーブルーフ

本社：〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2 TEL.03-5297-5602(代)
名古屋支店：〒460-0008 名古屋市中区栄2-9-15 三井住友海上名古屋しらかわビル10F TEL.052-231-6277(代)

コニカミノルタ グラフィックイメージング株式会社

紙をクリエイトする
Kamix®

紙のことなら何でもご相談ください。

最新の価値ある情報を常に提供いたします。

03年2月 ISO14001 認証取得
04年5月 CoC 森林認証取得
04年6月 名古屋市エコ事業所認定

大河内紙業株式会社
本社 名古屋市中区栄一丁目25-35 TEL.052-220-5511 FAX.052-220-5522
東京営業所 東京都中央区日本橋本石町4-5-3 TEL.03-3242-5561
物流センター 愛知県小牧市下小針中島1-7-8 TEL.0568-41-5581
U.R.L. <http://www.kamix.co.jp> / E-mail: info@kamix.co.jp

井上計氏を偲ぶ会



「井上計氏を偲ぶ会」会場
大勢の人達が井上氏を偲んだ下

中小印刷業界発展に多大な貢献を果たした井上計氏（1月6日に逝去）の、在りし日の温情を思い浮かべ、その人柄を偲ぼうと「井上計氏を偲ぶ会」が、2月26日午後3時半より東京千代田区のホテルグランドパレス「ダイヤモンドルーム」において開催された。

偲ぶ会は、新村重晴全日本印刷工業組合連合会顧問、野村正道全日本印刷工業組合連合会顧問、大河内信行全日本印刷工業組合連合会顧問、浅野健全日本印刷工業組合連合会会長／東京都印刷工業組合理事長、倉澤直則全国印刷工業健康保険組合理事長、田島一彌東京印刷工業厚生年金基金理事長の6氏が

発起人となり行われた。

会は、出席者による献花を行った後、発起人を代表して新村重晴顧問が、「本日は井上さんご縁の深い方々がお集まりです。井上さんの思い出にいたり、ご歓談いただければ幸いです」と挨拶。次いで、黙祷が行われた後、大河内信行顧問が「地元名古屋の人間として井上さんを亡くしたことは感無量である」とした上で、選挙での苦労話、3期18年にわたる活躍などを披露した。

献杯を倉澤直則理事長が行い懇談に入り、井上計氏の在りし日の活躍や人柄を偲んだ。全国より井上氏に縁の深い業界関連の人達180名が参加しました。



発起人代表挨拶をする新村氏



故人の思い出を語る大河内氏



Speedmaster SM 74

PREPRESS PRESS POSTPRESS

ハイデルベルグジャパン株式会社
名古屋支店 〒453-0855 名古屋市中村区烏森町4-74
TEL (052) 486-7556

卓越した印刷品質と生産性、そして柔軟性。
菊半裁判クラスのベストソリューション。

小ロット・短納期・低価格化の進む
今日の印刷市場で投資コストを抑えながら
ビジネスを確実に成功へと導く印刷機…
それがスピードマスターSM74です。

HEIDELBERG



手前が新工場棟

リョービ(株) / リョービイマジクス(株)

広島東工場に新工場棟完成 中型印刷機ニーズに対応



組立ライン(上)と塗装前処理液浄化設備(下)

リョービ(株) (吉川進社長、広島県府中市鶴飼町800-2)では、昨年10月、広島東工場に隣接した敷地内に延べ床面積約1万100㎡の新工場棟を建設し、拡大する中型印刷機ニーズに対応すべく、本格稼働に入っている。

この新工場棟は、生産体制の増強によるリードタイムの短縮、高い信頼性と高付加価値を実現する商品の開発と製造、人や自然にやさしい環境対応工場をコンセプトに、一貫生産体制のもとで印刷機生産が行われている。

新工場棟の延べ床面積は約1万100㎡、鉄筋造り2階建て。1階が組立・塗装・検収、2階が部分組立と組立用部品倉庫で構成されている。今回の新工場棟増設により、広島東工場は述べ床面積が2万となり、約60%の生産能力拡大を可能にしている。

特に注目されるのは塗装ライン。表面処理から塗装、乾燥までを全自動で行うことができるラインを構築し、生産効率と省人化を図っている。この塗装処理では、塗装面の耐久性が高い粉体塗装処理を採用している。さらに、新工場棟の増設にともない、中型印刷機のシリンダー加工ラインを集約させ、全自動の新型マシニングセンターなどの加工設備を増設するなど、加工能力の大幅な増強を図っている。

新工場棟では、既設工場と同様に工場内の温度・湿度を一定に保っており、部品の加工から機械の組立・印刷確認・最終検査まで、同じ環境で行うことで、ハイレベルな加工精度、組立精度を実現し、高品質で信頼性の高い製品の製造を行っている。

一方、環境面でも塗装工程での余分な塗料を約95~98%回収・再利用するほか、塗装前処理液を浄化し、きれいな水に戻すなど、環境対策も十分配慮した工場となっている。



- WindowsNT の採用により取り組み易い操作環境を提供
- 多様な展開が図れ、PDF ファイルへの変換が可能
- PS フォントと TrueType フォントの高解像度出力を実現
- 当社製 PS RIP「ExpressRIP-M」との接続に加えて、多様な他社 RIP への接続対応を順次実施

株式会社 **モトヤ**

〒461-0035 名古屋市中村区東門町128
☎(052)935-5315 代 ☎(052)935-5338

本の案内



全日本印刷工業組合連合会発行 「業態変革推進プラン - 全印工連2008計画 -」

全印工連では、冊子『業態変革推進プラン - 全印工連2008計画 - 第3ステージ 新創業』を刊行しました。

刊行された冊子は、昨年10月の全日本印刷フォーラムやまぐち大会で発表された、業態変革推進プラン第3ステージ「新創業」について、その内容をまとめたものです。

新創業が持つ意味と具体的なビジョン戦略、実践事例紹介、アクションプラン（5 Doors 7 Keys）の活用方法などについて詳しく解説しています。

全印工連は今後、各地区印刷協議会を通じて第3ステージ「新創業」の周知・徹底に務めていくとしています。

体裁 / A4判、本文74ページ。

本冊子の問い合わせ先は、愛印工組（TEL052-962-5771 事務局・勝野）まで。



お知らせ

(社)日本印刷産業連合会
「印刷校正記号改正」に関する
特別セミナーを3月23日(金)に開催

(社)日本印刷産業連合会（藤田弘道会長）では、印刷標準化委員会のもと、印刷産業の情報化に備え、調査研究や周知活動を展開しています。今回、印刷、書籍・雑誌出版業界、新聞業界など関連業界の委員により、「印刷校正記号」のJIS改正を行いました。第一次規格は1965年に、当時は主要な組版方法でありました活字組版を前提に制定されたものでした。40年以上の歳月が経過した今日では、印刷校正記号の内容もコンピュータ組版に対応させ、見直しが必要になり改正が行なわれました。

さらに、「Windows Vista」の登場により、文字環境が大きく変わります。搭載フォントの標準字体の変更、文字数の増加など。印刷業界にとって、影響が大きく無関心ではられません。漢字・字体の正しい理解、印刷校正記号の正しい使い方を広報すべく、3月23日(金)にセミナーが開催されます。

概要

名称 = 「『印刷校正記号改正とVista文字環境』に関するセミナー」

開催日時 = 3月23日(金)午後2時～4時30分

会場 = 日本印刷会館2階大会議室（〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8、電話03-3553-6051、

地下鉄有楽町線「新富町駅」、日比谷線「八丁堀駅」下車）

組織変更

合資会社界文社（山田宗弘代表取締役）では、株式会社界文社へ組織を変更した。

事務局だより

2月も半ばだというのに、暖かい日が続いています。いつもの年なら寒さで震え上がるのに、その寒さがありません。三寒四温という言葉がどこかに消えてしまったようで...。本当に異常気象なのでしょうか、非常に気になるところです。人間のみならず、動物、植物にも異常が見られるようで、温かくなると飛来する鳥なども姿を見せており、梅、菜の花、椿なども既に満開で、つくしが芽を出したり、桜が開花したという便りも届いているほどです。

2月の前半は主だった行事もなく過ぎましたが、後半になり理事会、工場見学会、中部地区印刷協議会、セミナー、井上計氏を偲ぶ会など、立て続けに行われ、忙しさが重なってしまいました。今月号はこれらの記事が中心になりました。発行日に間に合わせるため大車輪で編集に取り組んでおりますが、先号以来、APサロン、APインタビュー、我が社の得意技(業)がお休みになっていますことをお詫び致します。

「あいちの印刷」

No.424

平成19年3月10日発行

発行人 白井 紘一

編集 組織・共済委員会

発行所 愛知県印刷工業組合

〒461-0001

名古屋市東区泉一丁目20番12号

TEL 052 962-5771 (代表)

FAX 052 951-0569

E-mail アドレス jimukyoku@ai-in-ko.or.jp